

イチゴの天敵利用を中心とした I P M 防除による生産安定

ねらい

阿南・那賀地域では、温暖な気候や冬期の日照量の多さを活かした施設園芸が盛んであるが、近年、薬剤抵抗性を持つ難防除病害虫の発生により、効果的な防除技術の確立が喫緊の課題となっている。

これまで、イチゴについては平成27年度から天敵を利用したハダニ対策が導入されており、導入比率は毎年増加傾向にあるが、その一方で新たにアザミウマによる被害果の発生が問題となっている。イチゴのアザミウマ対策としてはリモニカスカブリダニなどの新たな天敵製剤も販売されているが、効果の安定において問題が残る。また、I P M 防除技術の導入には専門的な知識や経験値が必要であり、本技術に対する理解不足や費用面など課題も多い。

そこで、各生産者の現状把握を行い、どの生産者が取り組んでも天敵導入効果が発揮されるように地域に合った I P M プログラムを作成するとともに、巡回指導等による支援を行い、イチゴの生産安定に繋げる。

活動地域・対象

活動地域：阿南市・那賀町

対 象：イチゴ生産者（管内各 J A いちご生産部会 6 部会 4 2 戸）

普及活動の目標

地域に合った I P M 防除技術の早期確立及び普及を目指し、効果的な天敵導入法を現地圃場にて実証するとともに、管内部会講習会等において天敵技術導入時の注意点を啓発することによって天敵技術の導入支援により、生産安定に寄与する。

目標に向けた活動概要

- I P M 防除技術導入に関する課題の整理
 - ・天敵導入園等での調査及び聞き取りによる薬剤防除効果の把握と天敵導入技術の課題整理
 - ・ハダニ、アザミウマ類の生態から考えられる栽培上の注意点等を部会等で講習
- 効果的な天敵導入法の実証
 - ・育苗時からの防除プログラム提案やハウス周辺の除草など周辺環境の改善を推進
 - ・発生予察及び耕種的防除方法の推進
 - ハダニ及びアザミウマ類と天敵カブリダニの発生活長調査
 - ・天敵活用時の農薬使用方法の啓発



ハダニと天敵カブリダニ



ヒラズハナアザミウマ



発生活長、生育調査

普及活動の成果

○ I P M防除技術導入に向けた講習会等による推進の結果、天敵導入への理解が進み、管内全域のJAいちご生産部会員における天敵導入率は90.4%となった。

○発生消長調査では、年内からアザミウマの飛び込みが見られ、ハウス内で増加していることが確認された。定植前の除草と微小害虫侵入抑制効果のある資材の設置などの対策を行うなど、栽培環境を改善した上で、天敵を導入したところ、アザミウマの発生を低減することができた。



I P M技術導入に向けた講習会



光反射シートによる物理的防除

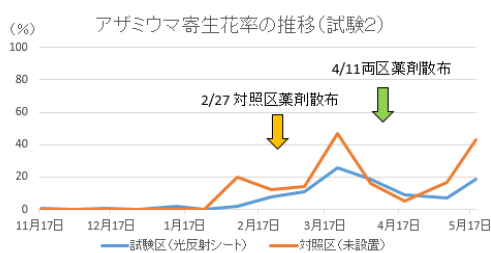


農業者による天敵調査

天敵導入率の推移(管内JA部会員)

(%)

| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|------|------|
| 管内全域 | 25 | 31 | 42 | 74 | 77 | 86 | 86.4 | 90.4 |



用語説明 I P M (総合的病害虫及び雑草管理)：病害虫の発生状況に基づき、耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除を適切に組み合わせることで、化学農薬を低減しつつ、病害虫等の発生を抑制する管理技術

今後の発展方向

○ハダニ対策については、天敵導入技術が確立されたことから、JA生産部会に属さないイチゴ生産者に対しても広く技術の普及を図る。

○アザミウマ対策については、侵入防止対策と早期の薬剤防除、天敵導入により一定の効果は見られたが、経費面での課題が残るため、更なる技術検証が必要である。

関係者からの声

- ・生産者：ハダニ防除については新規薬剤と天敵の導入により省力化が図られ助かっている。
- ・JA担当者：薬剤抵抗性の発現防止の観点からも天敵の導入は重要と考えられる。

阿南農業支援センター

連絡先：徳島県阿南市富岡町あ王谷46 tel：0884-24-4182